

交渉速報

J R 貨物労組中央本部業務部

2022年3月1日

No.12

組合：来年度事業計画で黒字を出すのであれば十分に支払い能力はある！

会社：コロナ禍による減送 大雪による輸送障害で厳しい状況にある

～「2022年度新賃金要求の申し入れ（申第6号）」第2回交渉報告～

中央本部は本日、第2回交渉を行ない2022年度新賃金要求の根拠を以下の通り主張しました。

- (1) 新型コロナウイルスは変異株が流行し、感染者も過去最高を記録するなど、急速に増えている。JR貨物グループにおいても今年だけで200人を超え、濃厚接触者も増えていることから業務に支障をきたしかねない状況である。このような中でも組合員は鉄道貨物輸送の社会的責任を果たすため必死に業務を担っている。
- (2) 全国の職場で若年退職者が後を絶たない。退職の理由は「人事制度に対する不安」「低賃金や労働条件」「会社の将来展望への不安」などであり、シニア社員も賃金と労働が見合わず退職者が増加している。すべての組合員の賃金改善・労働条件の改善が必要である。
- (3) 昨年度は物価上昇していないという会社の認識によってベアゼロとなったが、昨年10月以降食品・電気・ガスなどが値上がりし、更に原油高により生活が逼迫している。また、会社は1月期改定を行なったが、単体および連結の経常利益において黒字を達成する計画を下ろしていない。黒字計画を立てるのは会社として当然だが、それを担うのは組合員である。
- (4) 人事制度が変更となって、家族手当が基準外賃金となった結果、年末手当が目減りし生活に影響を及ぼす不利益が生じていることから、組合員の強い要望である「家族手当を基準内賃金」とすること。他にも、プロフェッショナル職群に対して、私たちが求める制度修正が実施されていないことから、賃金や制度の修正を強く要求する。
- (5) 乗務員休養室のシーツ毎日交換や空気清浄機の設置などを要望しても未だに解決していない。職場の切実な声が届いておらず、会社に対しての不信や不満が出ており、会社としてやるべき対策をしっかりと行なう必要がある。
- (6) 会社は次期事業計画を策定中であるが、黒字を出すのであれば、支払い能力は十分にある。JR貨物の内部留保は、発足時18億円だったものが2019年度には399億円にも達している。1人当たりの売上高も、発足時1500万円程度だったが3000万円に増えている。よって、組合員の生活改善のためベアを実施すべきである。
- (7) 以上の状況から、生き生きと働きがいのある会社とするため、この間、真面目に努力してきた組合員に対して申し入れ内容の実施を強く要求し、誠意ある回答を求める。

貨物労組の要求の根拠に対して会社は、「要求の根拠を真摯に受け止め、社内で議論をしていく」とし、次のように回答しました。

【次ページへ続く】

1. 職場では新型コロナウイルス感染症の陽性者を出しながらも列車の運行を止めることなく、苦勞している貴組合員に対して感謝申し上げます。会社は、社員の頑張りに対してはベアではなく従来通り「賞与」で応えていきたい考えである。
2. 1月期改定では収入未達分と経費を精査して△19億円下方修正し、経常黒字を10月期改定の23億円から5億円に下げている。しかし、オミクロン株の感染拡大や、大雪による輸送障害の発生により対計画91.7%に留まっており、黒字確保が難しい状況である。
3. ベアは物価上昇分と家族を含む生活給として考えているが、2021年1～12月の消費者物価上昇率は△0.2%であった。しかし貴組合の指摘の通り、直近では物価が上昇していることは確かであり、引き続き議論していかなければならない。
4. 貴組合の要求の根拠は受け止める。次回、団体交渉で会社の考え方を示せるよう、社内で議論を行なっていく。会社が置かれている状況について、前回の交渉で収入動向が厳しいことを言わざるを得ない。

会社の考え方に対し、中央本部は以下の通り主張しました。

- (1) 昨一年間の消費者物価指数は下がっているが、10月からは上昇しており、今後も物価は上昇していく見通しである。1月期だけで0.1%、生鮮食品に至っては0.5%も上昇している。ガソリンの価格も上がり、特に車を必要とする地方では生活が苦しくなっている。
- (2) 人事制度が変更となり、昇給額は旧制度より賃金カーブが緩やかになった。定年退職まで勤めれば生涯賃金が減らない制度であるが、現状の給料が低く、せっかく入社した社員も生活ができず、仕方なく転職を選択する社員が増えている。
- (3) シニア社員の基本給は、年金が支給調整されないように低く抑えられていて、やむなく低賃金で働いているが、法改正されて上限額が2倍になる。改善しなければ、技術力を持ったシニア社員の流出は避けられない。
- (4) JR貨物の社員は最低賃金に近い給料で働いている。そのような水準の給料では採用募集をかけても応募は来ない。社員の7割以上を占めるプロフェッショナル職群の社員の賃金は改善されず、むしろ下がっている。一部の人が昇給を実感するだけの施策ではなく、みんなに等しく実感できるように賃上げを実施すべきである。
- (5) 次年度の事業計画で何十億円もの黒字を出すのであれば、ベアを実施できる状況にある。黒字の計画を出しながらベアは出さないとすれば組合員のモチベーションは保てない。感謝の言葉だけでなく、ベアという形を示して、感謝の言葉と共に出すべきである。

貨物労組の主張に対して会社は、「本日の要求の根拠を真摯に受け止め、次回会社としての考え方を示す。収入動向を踏まえ経営判断していきたい。」と回答しました。

本日の交渉以降、いよいよ「闘争ゾーン」に入ります。会社は、ベアは物価上昇分としながらも収入計画の未達を理由に厳しい状況であるとして、頑なにベア抑制姿勢を見せています。私たちの要求実現にむけて、創意工夫した取り組みを行ない、職場の切実な声を結集しようではありませんか！

中央本部は、その最先頭で奮闘していくことを申し上げ第2回交渉報告とします。

以上

次回、第3回交渉は3月9日（水）です。